



羊ヶ丘養護園 安全委員会だより

北海道胆振東部地震被災特別号

発行日 2018.9月8日 発行者 ミウラ

平成30年9月6日午前3時8分ごろ、北海道厚真町で道内初の震度7の地震が発生しました。これまで、地震と津波等の被害を受けることがほとんどなかった札幌地方では、経験したことのない大きな揺れに多くの市民が恐怖におののきました。当園のある豊平区で観測された震度は5弱でしたが、子どもたちも職員も全員無事だったこと、建物等にも被害が発生しなかったに何より安堵いたしました。

当園の状況を心配されて、こぶしヶ丘の小川前会長や岡崎平和学園の小笠原施設長からお見舞いの電話を頂くなど多くの方々にあたたかい励ましを頂きました。本当にありがとうございました。

断水はなく食事に一切し支障がなかったことが幸いでしたが、地震直後より北海道全域にわたって停電となり電気が使えない不自由さを痛感しました。昨日7日の午後7時ごろ通電し、施設内では「やった！」と歓声と拍手が響き渡り、全員元気で、いつもの日常生活に戻っておりますことをお礼かたがた報告いたします。



地震後の子どもたちの様子

停電が続き、テレビが見られない、スマホが充電できず使えない、入浴できないなど子どもたちの不満やストレスが高まり、子ども間の対立やトラブルが発生するのではと心配しましたが、反対に心温まるエピソードがいろいろあったので、ここに紹介します。

●子どもたちは地震発生直後、持ち寄ったお菓子で、おやつパーティをして楽しく過ごしたり、男子高学年ユニットの子どもたちは、ラジオで聞いた「ペットボトルを使ったランタンづくり」をして、懐中電灯の光を広げる工夫をして周囲を明るくし、暗闇を少しでも和らげようと取り組んでいました。おかげで部屋の中はとて明るくなった！

●ある女子ユニットでは、中学3年の子が中心になって夏休みに外出した楽しかった水族館の思い出の絵を作ることを提案し、小学生から中学生が一緒になって、いろいろな種類の魚やタコ、イカなどを折って一つの絵を完成して暗い空間を明るくしていました。

●もう一つの女子ユニットでは、高校生3年生の子が、給水用に保管していた水が少し温まった水を利用して、緊急美容室を特設。椅子を並べて座らせ「ちょっと冷たいけど我慢してね」といい、順番に小学生の子どもたちの髪を丁寧にシャンプーしてくれました。お風呂は入れなかったけれど、洗髪してもらいサッパリして喜んでいました。

●小学生低学年の男子ユニットの子どもたちは、隣の幼児さんユニットの子どもといっしょに集まって、遊び相手になってくれました。

暗い中での幼児さんのお世話は大変だったので、職員はとても助かりました。

●小学生の男子は、数日前に開催された園内祭の景品で配られた(ペットボトルの底に電池が貼ってあり、きらきら光るボトル)をもって、歯磨きがんばっていました。白い歯がキラリと光っていました(笑)

●高校生の男子は、『星がきれい』だと小さい子に教えみんなで星空を見上げていました。家並み灯りや街並みの光がないので、いつもは見えない小さな星もたくさん見えて、本当にきれいな星空でした。

●電気がつかない不安からなのか、作ったランタンのある所に、「電球ボトル」をもって集まり、カードゲームやトランプして過ごしていた姿にホッとさせられ、印象的でした。

幸いなことに今回の地震災害では、当園に深刻な被害がなかったため、子どもたちの地震後の様子をお伝えする安全委員会だよりを出すことができました。

私は、このように子ども同士が集まって寄り添う行動や、大きい子どもたちから小さい子どもへの思いやり、周りのことを気遣う優しさは、当園で「安全委員会活動」と続けてきていたことと関連しているように思えるのです。

人は恐怖や不安が強ければ、強いほど、「安心と安全」を求めることは自然なことでしょう。不安だからこそ、仲間と一緒にいるとホッとすると、自分だけでなくみんなのために不安を減らし安心感をつくる努力をする、職員が指示したわけでもないのに、子どもたちが自然にとったこの行動から私たち職員が教えられることが多い。

我が園の子どもたちの成長を誇らしく思う。

でも、「これってやはり親バカかな〜」と大畑園長二人でと笑いました。

羊ヶ丘養護園 顧問 三浦 伸子



【子どもたちの作った水族館の折り紙の絵】